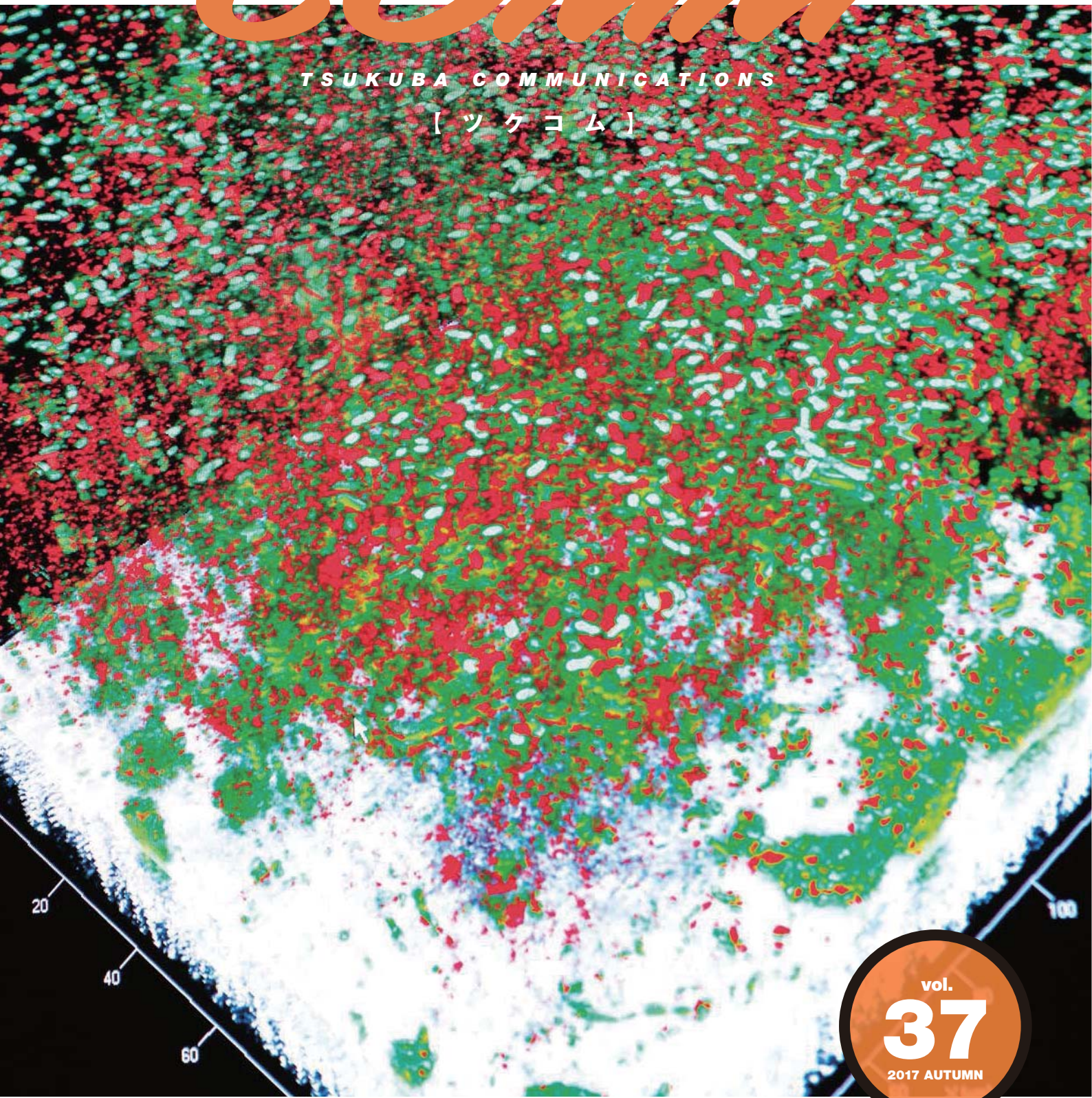


筑波大学の「今」を切りとる季刊広報誌

# TSUKU COMM

TSUKUBA COMMUNICATIONS

【ツケコム】



vol.  
**37**  
2017 AUTUMN



筑波大学  
University of Tsukuba





04 「聴」野村暢彦 教授

08 「TSUKUBA OBOG」藤井清美 氏

10 「附属学校めぐり」筑波大学附属坂戸高等学校 SGH研究開発科目「グローバルライフ」

12 「筑波大生デジタルフォトコンテスト 秋」

14 「躍動 筑波大生」辻川美乃利さん / LGBTQAサークルにじひろ

16 「Homeland」マーテン・ヴァン・デル・プラスさん

18 TOPICS | 23 世界のトピラ | 24 リレーメッセージ

聴

INTERVIEW

# コミュニケーションする微生物

その「言語」を読み解き、人類との共生の新たなフ

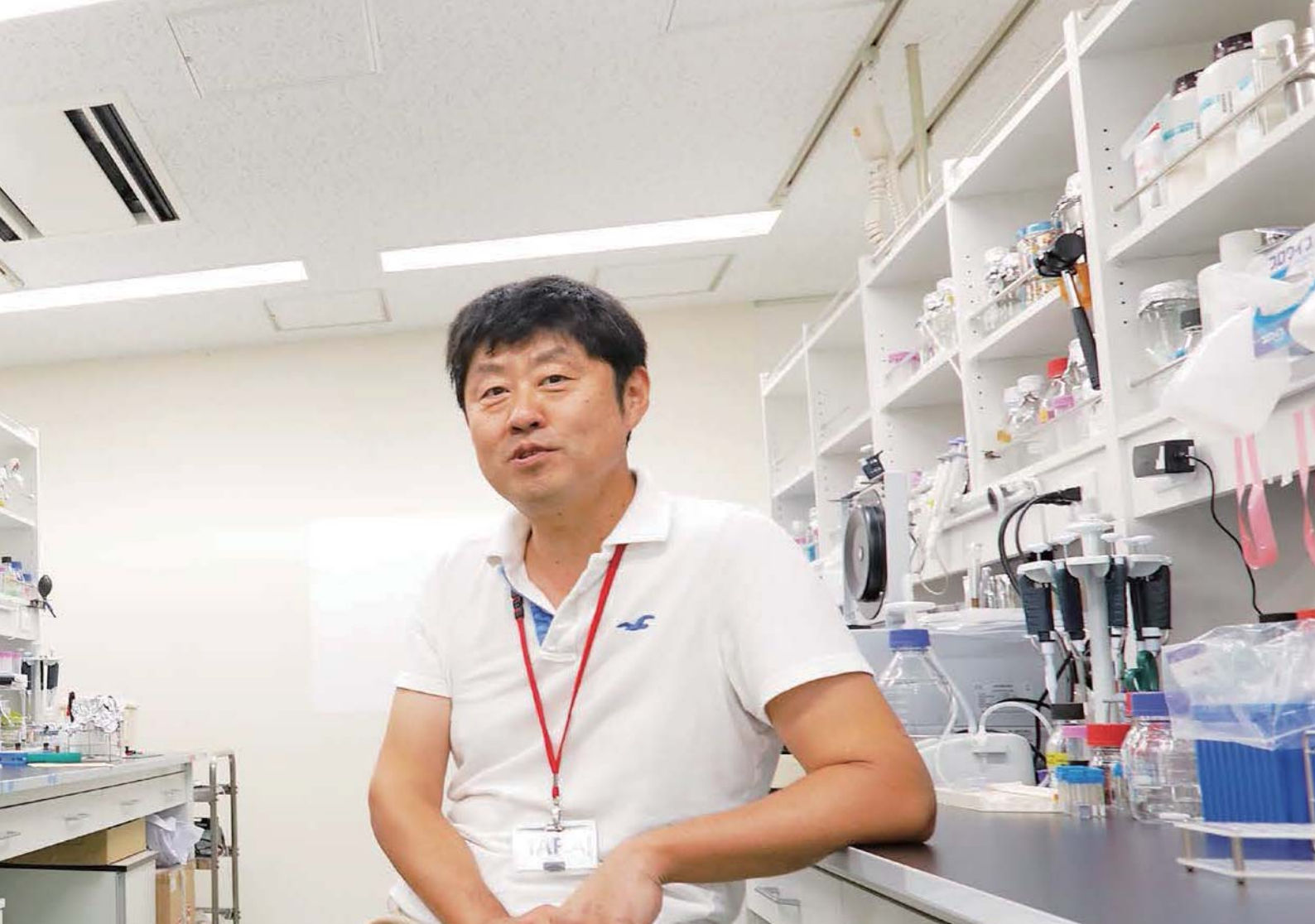
生命環境系

野村 暢彦

教授

*Nobuhiko Nomura*

感染症の原因となるウイルス、腸内環境を整える細菌など、人体に直接、影響を及ぼすだけでなく、食品の発酵や腐敗をもたらしたり、水処理や土壌改良にも利用される微生物。良くも悪くも、人間は微生物とのインタラクションの中で生きています。その仕組みを探っていくと、1個の細胞にすぎない微生物が集団として持つコミュニケーション能力と生存戦略に驚かされます。集団微生物の力を引き出し、制御できれば、人間とのより良い共生の道が拓けるはずです。



# たち

## エーズを拓く

### ■地球の覇者、微生物

約46億年前の地球誕生から数億年後、最初に出現した生命体が単細胞の微生物です。多細胞生物が登場するのが約9億年前ですから、地球の歴史上、ほとんどの期間は微生物しかいなかったわけで、その間に何度も生じた大きな環境の変動にも耐え、多細胞生物が生まれても絶滅することはありませんでした。それどころか微生物は、植物にも動物にも、もちろん人間の体内にも入り込んで生き続けています。

最近注目されている腸内細菌もそのひとつ。つまり微生物は、人間が生きるために不可欠な役割を担っているのです。そのような重要な機能は、進化の過程で人間自身の遺伝子に組み込まれてもよさそうですが、微生物に頼

る仕組みになっています。そう考えると、地球上の生物を維持し、支配しているのは微生物だということもできるでしょう。

微生物は目に見えないサイズで、空気、水、土、さらには普通の生物なら生きていられないような過酷な環境中にまで無数にいて、どんなに気をつけても接触は避けられません。病気の原因など好ましくない影響もありますが、むしろ微生物のことをよく知り、彼らの能力をうまく制御しながら共存の方が賢明です。そのための研究プロジェクトが進められています。

### ■「集団」として微生物を捉える

一方、人類はその存在を知らずと前から、発酵や醸造など、経験的に微生物を利用し、

文明を築いてきました。顕微鏡ができて、1680年に微生物として認識されると、抗生物質など積極的に活用するようになりました。人類の発展には、微生物の恩恵を受けた側面があることは否めません。

微生物そのものも研究され、それぞれは単細胞ですが、単独で行動するのではなく、何億もの個体、しかもいろいろな種類の微生物が集まって存在していることがわかってきました。人間に例えると、異なる民族や人種、さらには犬ぐらいに離れた種までが、一つの集団に含まれています。それらは互いに助け合ったり、時には戦ったりしながらも、全滅するようなことはなく、集団を保っています。

このような微生物の集団を「バイオフィルム」といいます。フィルムとはいっても平面とは

限りません。立体的な塊になるなど、環境に応じて様々なパターンを形成し、あたかも全体としてひとつの多細胞生物のような挙動を示します。植物の葉の裏や池の中などにヌルヌルしたものを見たことがあるでしょう。それがバイオフィーム。自然界のどこにでもいるのです。

### ■ 高度なコミュニケーション

集団内での協調や争いは、どのように行われるのでしょうか。微生物たちは神経細胞ニューロンのようにネットワーク状につながります。そうして集団になると、細胞の外にいろいろな化学物質を放出します。これがヌルヌルの正体であり、彼らの「言語」です。ベシクルという粒

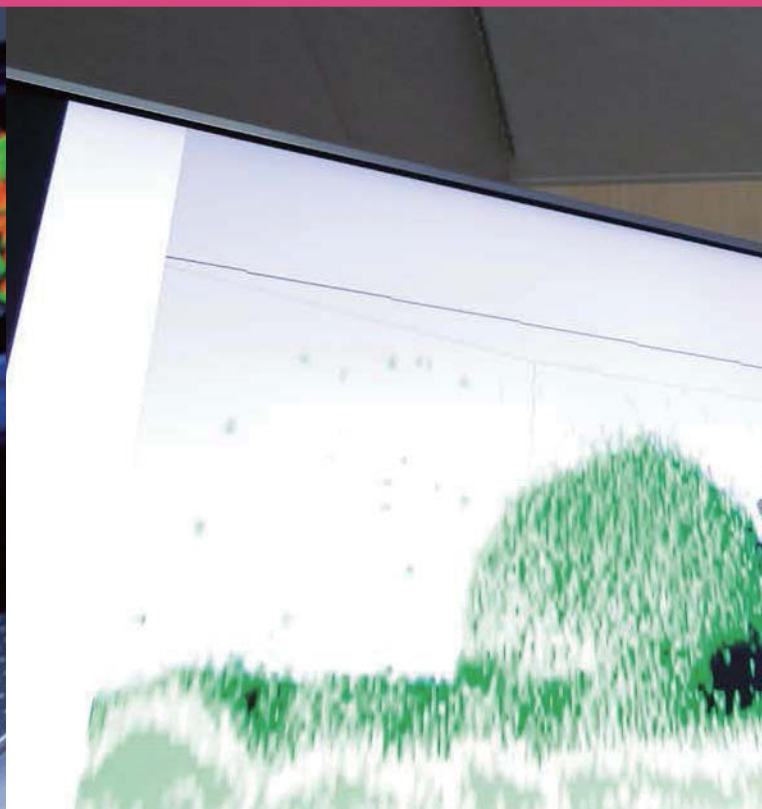
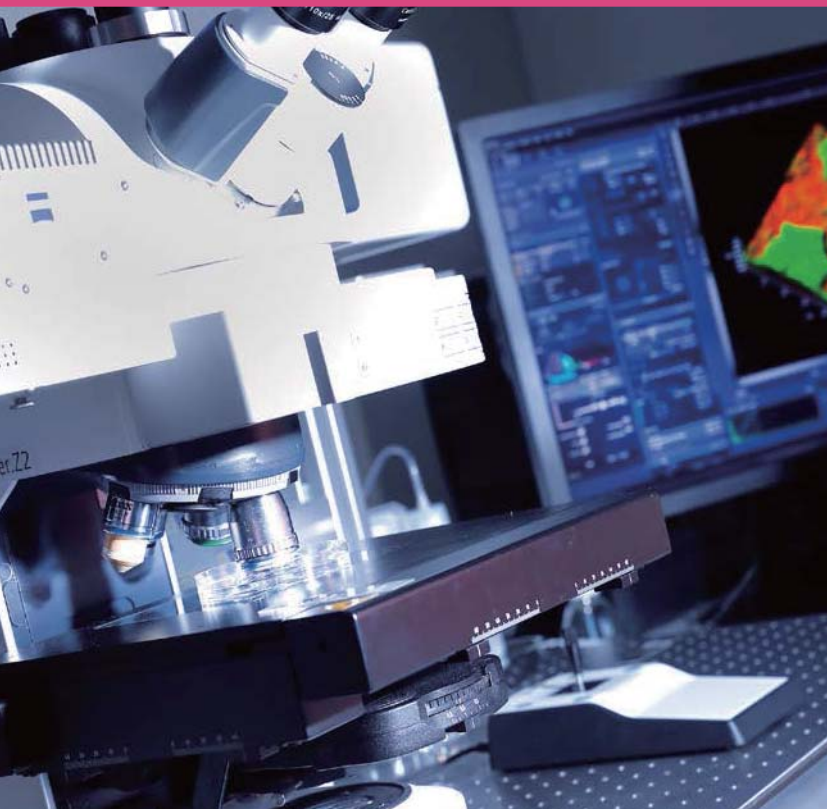
子の中にメッセージを入れて花粉のように飛ばし、集団の外にいる細胞に届けることもできます。この化学物質を受け取ると遺伝子にスイッチが入り、特定の行動として現れます。遺伝子操作でその作用を阻害すると、集団が形成できなくなったり、環境変化への適応力が低下してしまいます。特に脳に相当する部分は存在しませんが、コミュニケーションによって集団の統率がきちんととれているときに、微生物はその力を発揮するのです。研究プロジェクトでは、このような微生物のコミュニケーションの仕組みを発見し、世界中のバイオフィーム研究に拍車をかけました。

微生物の言語には、英語のように異種間でも通じる共通語もあれば、特定の種類にしか通

じないものもあります。マルチリンガルや、おしゃべりだけれど話を聞かない、周囲と同調しないなど、微生物にもいろいろな個性があり、それがひとつのバイオフィームの中で共存している様子は、多様性に富み、高度なコミュニケーションが成立している一種のコミュニティ。単細胞の小さな生物が何十億年も生き永らえてきた秘訣が詰まっているのかもしれない。

### ■ イメージング解析の力

バイオフィーム研究が進展する背景には、近年の解析技術の発達があります。従来は、細胞を壊して遺伝子を解析するという手法が用いられていましたが、共焦点顕微鏡を使って、



TSUKU COMM  
HEADLINE



### JST/ERATO 野村集團微生物制御プロジェクト

集団微生物の挙動や微生物間の相互作用を解明するために、野村暢彦教授の指揮のもと、2015年から5年間に渡って本学で実施されている研究プロジェクト。科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業総括実施型研究（ERATO）のひとつで、6つの研究グループで構成され、大学院生も含め総勢50人ほどの研究者が参加する。



染色などをすることなく、生きたままの集団の動きをリアルタイムで観察できるようになりました。また、集団を構成する個々の細胞に着目することも可能です。このようなイメージング解析技術でも、このプロジェクトは世界トップクラス。例えば歯の表面で微生物がどんどん増える様子や、薬剤を入れたときに、集団内で爆発のようなことが起こったり、細胞が外側からはがれていく様子などを、三次元で捉えることができます。

百聞は一見に如かず。画像や動画は、誰にでも直感的に理解できる形で研究成果を示すために重要なツールです。そのベースとなる解析技術の開発は、これからの微生物研究には不可欠な要素です。そこで必要なのは生物学に加えて物理学や工学。さらに、コミュニケー

ションを理解するためには、化学や情報学の知見も駆使しなくてはなりません。研究プロジェクトには、そういった分野の研究者も含まれています。

#### ■微生物とのスマートな共生に向けて

微生物を使った水処理は1900年代の初めから行われていますし、最近では花粉症対策として乳酸菌を摂取するなど、特定の微生物を体内に取り込んだり排除したりして健康増進を図ることも盛んです。しかし私たちはまだまだ微生物の本当の能力を知りません。下水にしる、腸内にしる、彼らは自分たちが住み良い環境にしたいだけですから、人間が求めるレベルまで力

を出す必要はないのです。

微生物の言語を理解したり、外的な刺激に対する反応を知ることは、人間が彼らとコミュニケーションする術を手に入れること。集団の一員のようにして微生物にメッセージを届け、本来の力を発揮させたり制限できるようにになれば、有用か厄介者かという両極端な扱いではない、もっとスマートな微生物との共生関係が築かれるはずです。

微生物を知れば知るほど、その生存戦略の緻密さに圧倒されます。生命とは何か、どのようにして維持していくべきか、最も単純で身近な生物が教えてくれることは、深い示唆に富んでいます。



## PROFILE

のむらのぶひこ

1995年 広島大学大学院工学研究科博士課程修了 博士(工学)  
1996年に筑波大学に着任して以来、微生物代謝やバイオフィームに関する研究を続け、2013年より現職。その間、国立環境研究所、米国Dartmouth Medical Schoolの客員研究員等も務める。2015年に開始したJST/ERATO野村集団微生物制御プロジェクトでは、研究総括として、集団微生物の全貌解明に挑むとともに、若手研究者の育成や分野横断的な研究体制の推進にも力を注いでいる。





# 真実がドラマをつくる

テレビドラマや映画、舞台の脚本を手がける藤井清美さんは、大学時代には西洋史を専攻しました。筑波大で歴史を学ぶと決めた高校生の自分を褒めたいと話します。その真意とは？

脚本家 演出家 **藤井清美** 氏



## PROFILE

ふじいきよみ

1971年 徳島県生まれ

1990年 筑波大学第一学群人文学類入学

1994年 同卒業

1993年在学中に劇団青年座文芸部入団、2000年に日本テレビシナリオ登龍門優秀賞を受賞し、映像の世界にも活躍の場を広げる。手がけた主な作品に、連続ドラマ「ハワバノ王子さま」、「恋愛時代」、「ウツボカズラの夢」、映画「L change the World」、「インシテミル 7日間のデス・ゲーム」、「るろうに剣心」シリーズ、「ミュージアム」など。2017年6月には初のオリジナル長編小説「明治ガールズ 富岡製糸場で青春を」をKADOKAWAより出版。

### ■ 本学に進学した理由を聞かせてください。

高校生の頃には、演劇に関わって生きていこうと決めていました。でも徳島から大阪や東京に出て、俳優の養成所や大学の演劇学科で他のライバルたちと同じことをしても、自分には勝機はないのではないかと考えました。

一方で、私の強みは何時間でも演劇について考え、調べられることでした。自分がこれほどまでに魅了されている「演劇」は、世の中の人たちにとってどんな価値があり、なぜ何千年も経た現在まで残っているのかという興味から、演劇史を学ぼうと筑波大へ進学しました。人文学類では西洋史を専攻し、卒業研究で、シェークスピアの少し後の時代、イギリスで初めて女性として俳優になった10人について調べました。その後プロ初脚本・初演出作品となった『琥珀の中で眠るもの』という舞台戯曲は、このうちの1人がモチーフになっています。

### ■ 脚本家になることは、いつ頃から考えていたのですか？

大学時代は、都内で映画のエキストラをしな

がら、演劇の世界に入の手立てを模索していました。その頃の悩みは、演劇で生きていきたいのに、自分にできるかどうかわからないということでした。でも何かを目指す時に、才能の有無について悩んでも、それを判定する目印なんて無いのだから、こんなことで立ち止まっていないで、自分の得意なことと演劇を結びつけようと考え、脚本家に方向が定まりました。

高校の演劇部では、部員数や上演時間にあわせてオリジナルの脚本を書いていたし、大学生になってからも、創作は好きで、書くことを続けていました。このまま春になったら就職活動を始めなければならない大学3年の終わりに、将来を賭けて、温めていた脚本を劇団青年座に送りました。それが認められて、大学4年の春から劇団員として正式に採用されることになりました。

### ■ 劇団員としての生活はどんなものでしたか？

卒業に必要な単位はほとんど取っていたので、卒業研究を進めながら週5日は東京の劇団に通うという生活でした。東京とつくばを行き来する高速バスには何度乗ったことか。車内

ではいつもひどい寝姿だったと思います。

在学中よりも卒業してからの1年間で人生で最高に貧しくて、劇団スタッフとはいえ、ほぼ見習いみたいなもので給料もなく、アルバイトと実家からの仕送りで生活していました。

母親には「アルバイトをするために大学まで出したと思いたくないけど、演劇をするために大学に行き、今はまだ生計がたてられない、ということならば承する」と言われたのを覚えています。一時的な下積みならば仕方ないと、理解を示してもらえたことはありがたかったです。

### ■ 活躍の場を舞台、テレビ、映画へと広げていらっしゃいます。

映像の仕事をする前は、舞台の演出助手をしていました。実は大劇場の演出助手の方が、小劇場の演出家より稼ぎがよいこともあって、先輩から「優秀な助手は重宝がられて、演出家になるタイミングを逸してしまう」とも聞いていました。そこで助手になる時に、5年で辞めようかと決心していました。5年目に突入したある日、思い立って公募雑誌を買い、その中で見つけた「日本テレビシナリオ登龍門」に応募しまし





た。打開的に新しいことにチャレンジするというのは、青年座に脚本を送った時と同じですね。それが優秀賞をいただいて、程なくテレビの仕事に関わるようになりました。

舞台、映像それぞれに面白さがあって、舞台では自分が書いた劇を客席で見ながら、人々の反応をすぐそばで感じることができます。映画はスケールの大きなものが描ける可能性があるし、テレビは脚本を書いてから作品になるまでが短いため、今の関心をそのまま届けられます。

### 藤井さんにとって脚本家とは どんな仕事ですか？

誰でも、人との関係のなかで、言いようのない不安やもどかしさ、苛立ちや後悔を感じることがあると思います。そういった感情はいつまでも心を占めて、とても苦しい。私が感情を台詞や場面で表現したときに、ご覧になった方が共鳴したり、心に抱えていることとの共通点を見つけて少しホッしたり、答えが見つかるような感じを味わってくれたらと、そんな風に思いながら書いています。私はこれを、「感情に名前がつく」という言葉で表現するのですが、14時間

休みなくキーボードを叩き続けて腕がパンパンになったり、書き上げてから十数回も書き直すこともあります。それでも続けられるのは、ドラマや芝居を通じて誰かの役に立つのではないかと考えるからかもしれません。

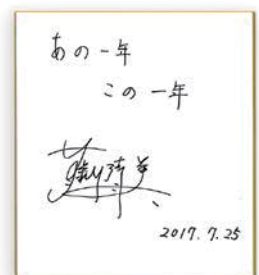
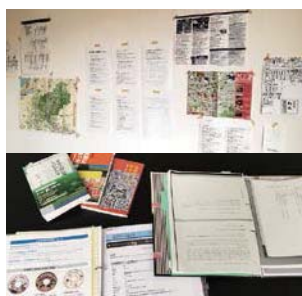
脚本はフィクションの世界ですが、真実のない突飛な想像には、誰も共感してくれないでしょう。実証されたものの上には、推測は成り立ちません。大学で西洋史を学び、事実に基づいて検証するという手法を身につけたことは、この仕事をする上での大きな財産になっています。歴史を専攻しようと決めた高校3年の私に「よくやった」と言いたいです。

### 筑波大で学ぶ後輩たちに、 是非メッセージを。

小説『明治ガールズ』にも書いたことですが、人が成長する過程では、小さい丸から突然大きな丸になれるわけではなくて、いびつになってしまう時が必ずあります。そういう時期には、当然反発も買出し、熱中するあまり他のことが疎かになってしまうこともあります。しかし、それも通過点と思って、不恰好になることを恐れず、チャレンジして欲しいと思います。



装画：いつか/KADOKAWA刊  
初の小説『明治ガールズ 富岡製糸場で青春を』とその取材資料の一部



今の「この1年」を、過去に勉強や仕事で飛躍した「あの1年」のように充実させねばという意味で。

# 附属学校 めぐり

## 暮らしと世界をつなぎ、

本学には11の附属学校があり、それぞれの分野でわが国の教育をリードしています。各学校のユニークな先生や授業、行事などの活動を紹介します。

筑波大学附属坂戸高等学校  
SGH研究開発科目

## 「グローバルライフ」

### ■ 家庭科から発展した「グローバルライフ」

附属坂戸高校(筑坂)には、1年次の全クラスで同じ科目の授業が行われる時間があります。しかし各クラスを覗いてみると、「日本食(和食)」「休日ファッション」「パーム油」「ホームステイ」と、それぞれ異なるテーマの授業が進んでいます。授業スタイルも、通常の講義形式あり、グループディスカッションあり、と一見バラバラですが、これが「グローバルライフ」の授業です。

海外での和食のイメージや和食がユネスコ無形文化遺産に登録された理由から、日本の

食文化について考える食分野、いつも着ている服の素材や産地、手入れの方法などを調べ、それがどのようにして自分の手元に届いたのかを考える衣分野、食品や日用品にたくさん含まれているパーム油から、途上国の問題を考えるグローバル課題、ホームステイで外国人を受け入れることを躊躇してしまう理由を挙げ、誰もが住みやすい社会について考える多文化共生、これら4つの分野を、1年を通して順番に学んでいきます。すべて学び終えた時には、これらの分野が互いに関わりあっていることも理解するでしょう。

グローバルライフは、家庭科を基礎として構成された授業です。そう聞くと、意外な感じを受けるかもしれません。家庭科は本来、自分がよりよく暮らしていくための知識やスキルを得るための教科ですが、その根底にある衣食住、家族や消費生活、労働や福祉、といった学習要素はどれも社会との関わりが深く、かつ、あらゆる教科との幅広い接点があります。ですから、授業を担当する5人の先生も、家庭科・工業科・地歴公民科とバラエティに富んでいます。視点を少し家庭の外に向けて、世界とつながるさまざまな扉が開く、そんな家庭科の懐の深

### スーパーグローバルハイスクール(SGH)

社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力などの素養を身につけ、将来、国際的に活躍できるグローバル人材の育成を図ることを目的に、文部科学省に指定された高等学校。現在、全国で123校が指定されている。

附属坂戸高等学校は平成26年度からSGHの指定を受け、必修科目のグローバルライフをはじめ、海外校外学習や国際交流活動などの特色ある教育に取り組んでいる。



# 未来をつくる種を蒔く

さに目をつけたところに、この授業のユニークさがあります。

## ■ 外の世界に目を向ける

ごく普通の生活の中にあるものや、当たり前のこととして行っていることについて、いったん立ち止まってよく考えてみると、知っているようで知らないことがたくさんあります。導入の授業では、自分の日常が世界規模での経済活動の一端を成していること、あるいは脈々と受け継がれてきた文化や慣習の延長上にあることなどに驚きます。一方、グローバル化が進む社会に育つ若者でも、外国人に対してある種の抵抗感や過度の気遣いがあり、なかなか交流ができないといった現実も浮かび上がります。

筑坂では、海外青年協隊などの活動を経験した先生が何人もいることもあり、スーパーグローバルハイスクールの指定を受ける前から、生徒たちの海外活動に力を入れてきました。1年次で全員がカナダでの校外学習を行い、2年次以降は、東南アジアの国々でのフィールドワークや交流活動などに参加する機会が用意されています。グローバルライフは、こういった活動への布石にもなると同時に、海外での実体験をフィードバックする授業でもあります。校外学習を経て、日本について改めて考えたり、なんとなく遠い存在だった外国や外国人が身近なものになると、テーマの捉え方にも変化が現れ、学びが一層深まります。

## ■ グローバル人材の種を蒔く

グローバル＝英語を学ぶこと、というようなイメージがありますが、言語はツールに過ぎません。伝えるべきこと、伝えようという意図があれ

ば、英語でも日本語でも他の言語でもよいのです。重要なのは国際的な視点を持つこと。その出発点は特別な知識や経験ではなく、毎日の暮らしです。一生活者として地に足をつけた考察と理解が、日常と社会や世界との関わりへの気づきに発展します。

また、自分の考えをしっかりと持ち、論理的に順序立てて述べるというトレーニングも重要です。他の人と違っていることを避けがちな世代にあって、堂々と議論をしたり、自分なりの意見を表明することが当たり前になるような環境づくりに、グローバルライフはもとより、他の教科や授業でも注力しています。

考え方や意識に変化をもたらすような気づきは、自力で得なければ身についたものにはなりませんし、その内容やタイミングはみんな違ってきます。グローバルライフは、授業としては1年次だけで完結しますが、実はその中で、生徒一人ひとりがいつか自分なりの気づきに出会えるように、いろいろな種が蒔かれています。そのような気づきの種は、プライベートな生活の中にももちろんあります。しかし、高校生が最も多くの時間を過ごす場所は、やはり学校。そこですでに多種多様な種がたくさん蒔かれている方が効果的なのは言うまでもありません。

実際、2年次、3年次と進み、選択科目や卒業研究のテーマを決めるとき、多くの生徒が、1年次でのグローバルライフで学んだことをきっかけにしています。この授業は、将来の進路だけでなく、自分の歩んでいく人生や、未来の社会を考える上でも、生徒たちにとって大きな影響力を持っています。真のグローバル人材への土台を育む種が筑坂で芽吹き、世界のあちこちでとりどりな色や形の花を咲かせる日が、いずれやってきます。



## 意識の変容を生む授業

「グローバルライフ」という科目は、スーパーグローバルハイスクールに指定された本校における重要科目として開発されました。「家庭基礎」を元としたものですが、家庭科教員だけではなく他教科教員、外部講師も授業を担当し、「自分の生活と世界がどのようにつながっているか」という視点で行われます。「新しい授業をつくる」ために、先

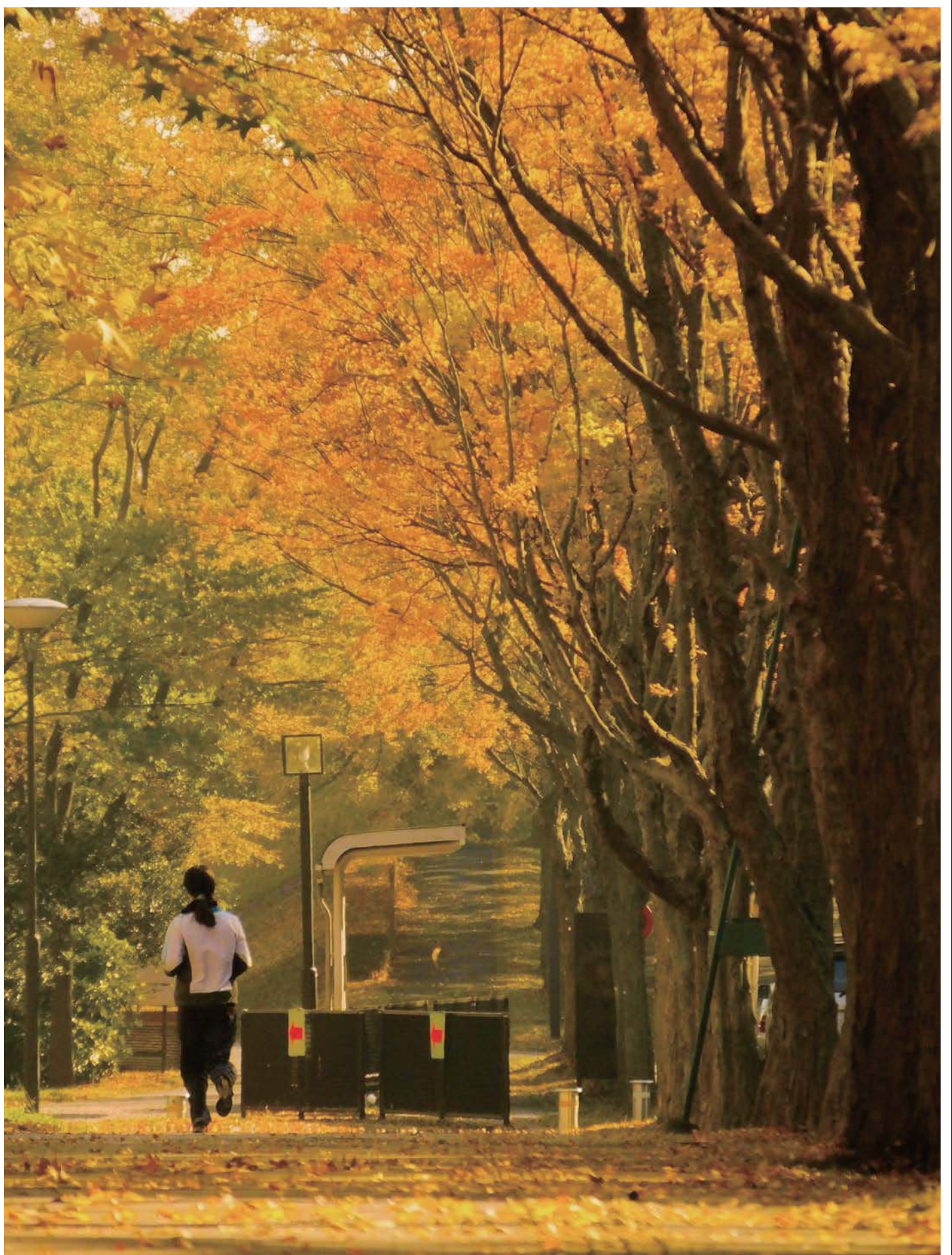
生方は何度も話し合いを重ねてきました。その甲斐あって、実感しやすい内容を取り上げた授業は生徒にとっても魅力的らしく、楽しそうに生き生きと取り組む姿を微笑ましく感じます。生徒自身も、意識の変容に影響を与えた授業活動だったと振り返っています。「グローバルライフ」が、生徒にとって「世界」を考えるきっかけとなり、また今後の学びへのモチベーションとなるよう、さらに深化、進化することを願っています。



岡 聖美  
副校長

本科目の責任者 山本 直佳 教諭(左)

最優秀賞



「紅葉ジョグ」 理工学群社会学類4年 小出拓也さん

本学広報室では、WEBを中心としたブランディングの新たな取り組みとして、「筑波大生デジタルフォトコンテスト」を行っています。  
応募作品にはいずれも、学生ならではの生き生きとした視点で、キャンパスの日常が映し出されています。

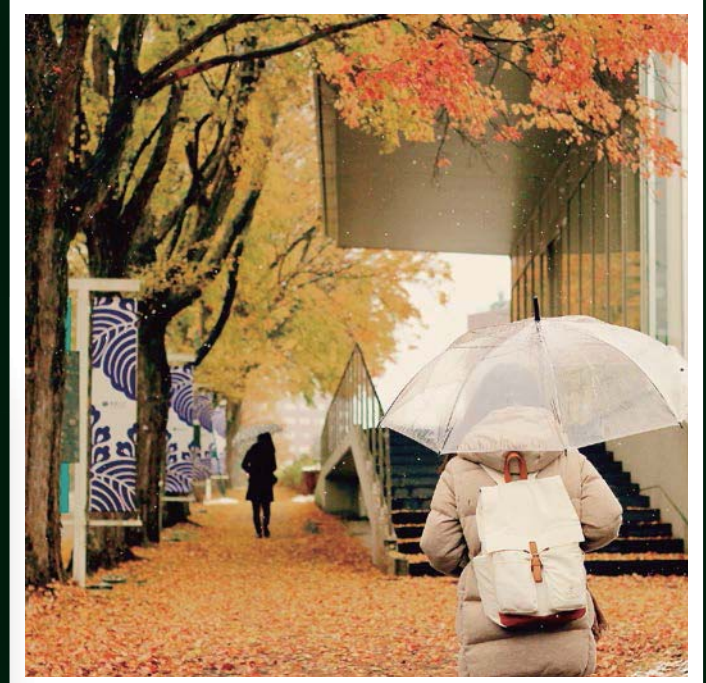
「キャンパスに秋がやってきた!」のテーマで、2016年10月1日～11月30日に応募された中から、入賞作品を紹介します。

※ 撮影者の所属・学年は受賞時

## 優秀賞



「秋の陽光」 人間学群心理学類1年 荻野壮さん



「Snowy Day in Autumn」

人間総合科学研究科研究生1年 デニ・アイコ・スピヤントロさん



「秋を集める」 芸術専門学群1年 千葉瑞希さん

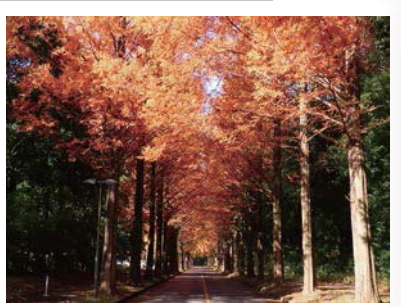
## 入選



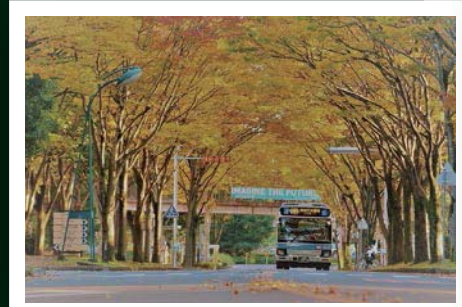
「カタワレドキ」 人間学群心理学類1年 村上誠さん



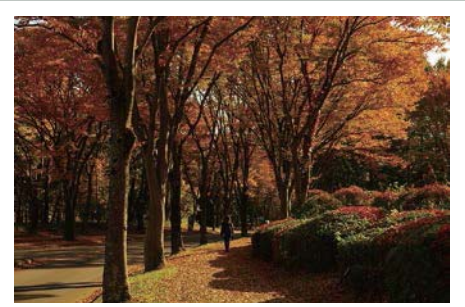
「映える紅葉」 生命環境学群生物学類3年 豊島理さん



「The tunnel of orange leaves」  
人間総合科学研究科研究生1年 ファン・マルティン・ウエハラさん



「気づけば深秋」 生命環境学群生物資源学類2年 小嶋淳史さん



「秋の道」 生命環境学群生物資源学類4年 相原隆貴さん



# 躍 筑波

## 向かい風に乗る

専門種目は円盤投と砲丸投。第101回日本陸上競技選手権大会 女子円盤投で優勝、9月には52m56の記録で自己ベストを更新。理想とする選手は「陸上部の先輩方」、競技をどこまでも追究する姿がかっこいい。好きな授業は障害科学類の専門科目、知らないことばかりだから。

MINORI TSUJIKAWA

体育専門学群4年 **辻川美乃利** さん 陸上競技部

辻川美乃利さんは、出身地大阪で行われた第101回日本陸上競技選手権大会で、自身初となる全国優勝を成し遂げ、笑顔で表彰台に立った。「2ヶ月前に、ボロ負けしたのが逆に良かった」と勝因を語る。

前哨戦として挑んだ4月の大会で、自己ベストを10mも下回る記録で予選落ち。距離が伸びないとこぼす辻川さんに、「数字ばかりにこだわってない?」という友人の指摘が響いた。距離はあくまで結果、本質は自分の動きにある。わかっていたつもりだったのに、改めて気付かされた。そこから円盤投の動作ひとつひとつを徹底して見直し、そして挑んだのが前回の選手権だ。「試合中、他の選手が投げている間も、

理想の動きをイメージしながら、次の1投に集中して試合に臨むことができました」と振り返る。

小学生の頃は体育で褒められたことなどなかった。中学では希望する部活に入れず陸上部に入部。肩の強さから砲丸投を勧められた辻川さんは、小さな大会に出場し、思いがけず入賞した。続く秋の大会では大阪府で4位。「私でも、活躍できるスポーツがある!」と投てき競技が好きになった。高校から始めた円盤投では、インターハイで6位の成績を挙げた。憧れていた本学の陸上競技部を見学して、インターハイや大学選手権で優勝経験のある選手ばかりで驚いた。そして「いつか、この一員になりたい」と思ったという。

辻川さんにとって進むべき方向に迷いはない。卒業後は競技を続けながら、大学院で健康教育学や学校保健学を学び、特別支援学校の教諭を目指す。幼い頃から障がいのある友人と過ごすことが多く、学校生活、とりわけ体育で感じるもどかしさを見てきた。「障がいがあっても、体育が楽しめたら」という思いがずっとある。

円盤は追い風よりも、向かい風の方が飛ぶ。辻川さんの投げた円盤は、風を捉えて浮き上がり、気持ちよさそうに素直に飛んでいく。自らの動きが生み出す遠心力と、風と円盤が作り出す揚力で飛距離は伸びる。針路を定め進む、辻川さんの姿そのものだ。



競技で使うディスクは1kg、手のひらより少し大きめ



後輩にひとこと  
勉強でも部活でも、自分から求めれば多くのことが学べます。自由な環境だからこそ、主体性をもって積極的に行動することが大切です



# 動大生

# 自分らしく、ありたい

写真提供：  
特定非営利活動法人  
東京レインボープライド

セクシャルマイノリティの当事者と支援者が、身近なことからLGBTQAに関して考え、行動するサークル。5月の東京レインボープライド2017ではパレードに参加。活動方針は「無理はしないけど、できることはきちんと」。Twitterは@nijihiro\_tkb、Webは「にじひろ」で検索。



## LGBTQAサークル **にじひろ** 本学認定一般学生団体

「もし、『にじひろ』に参加していなかったら、今頃、大学には来られなくなっていたと思う」。メンバーの1人が話す。大学生になって初めて自分がセクシャルマイノリティだと気づいた。友だちとの恋愛話でも、嘘は嫌だけど理解してもらえないのが不安で話せない。自分はおかしい、誰にも言えずにひとり悩んだ。そういう人は多いのではないか。

本学公認サークルの「にじひろ」は、LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender) に Questioning、Queer (クエスチョニング、クィア: 自己の性がわからない、特定しない)、Ally (アライ: 支援者) を含め、セクシャルマイノリティであるなしに関わらず、性の多様性を理解しよ

うと集うLGBTQAサークル。当事者の悩みや、疑問を気軽に語り合う。「結婚とかがどうなる?」「家族ってなんだろう」、雑談と核心が行き交い、素の自分に戻って本音で話せる。自らの性別や志向に関してカミングアウトするもしないも自由だ。

公認サークルということから、他大学やメディアから意見を求められる機会も多いという。これまでに、比較文化学類との共催で映画上映や講演会、LGBT講座などを開催。10月には本学主催のAwareness Week 2017で、他大学のLGBTサークルとの公開意見交換会や写真展を、11月の学園祭ではワークショップを行うなど、活発に情報を発信していく予定だ。

にじひろの代表は、このサークルがセクシャルマイノリティの当事者にとって、自分らしくいられる居場所であることが最も大切だと語る。だからこそ発言する際には、第三者に予期せずプライバシーが伝わってしまう「アウティング」のリスクに配慮している。

日本人のおよそ3.3~7.6%がセクシャルマイノリティだといわれている。友だちや先生との日常の些細な会話の中でゲイやレズビアンがジョークにされるとき、そばで複雑な気持ちを抱えている友人がいるとしたら? 「にじひろ」はセクシャリティを扱いながら「多様性の価値」を提起する。誰もが心地よく過ごせる大学をめざして。

後輩にのびる  
同じ思いを抱いている仲間が多いから、ぜひ試みに行動を起こしてほしい。LGBTを知ることだけでなく、マイノリティとは何か、みんなそれぞれ違うということを知ることが大切だと思います。



代表、副代表の3人が  
企画や学内外の渉外を分担する





オランダ王国



# Homeland

本学には、100を超える国から、約3千人の留学生が訪れています。このコーナーでは、本学の留学生から、出身国の自慢の場所や風景、食べ物など、多岐にわたって紹介していただきます。

## 独学で日本を知り、つくばで世界をもっと知る

### ●日本語はネットで独学

オランダの南、ドイツとベルギーの国境近くの都市、マーストリヒト近郊のカディール・エンケールという小さな町が私の故郷です。中学の時に映画『ラストサムライ』を見て、日本に興味を持ちました。特に漢字は、「宇宙人の言語」という印象でした。非常に難しそうだったので使いこなせたらカッコいいと思って、Webで「Learn Japanese」と検索するところから始めました。学校ではラテン語、古代ギリシア語、英語、ドイツ語などを勉強していましたが、それらとは全く違うのも面白くて、放課後、家に帰るとすぐに日本語を勉強するのが日課になりました。教材には新聞も使っていたので、日本の国内情勢や政治、近隣諸国との国際関係についても興味深く知ることができました。

進学前に、オランダで日本語を学べるライデン大学の授業を見学しました。ところが授業が

意外に易しくて、これはオランダで日本語を学ぶより、日本語を使って何かを学んだ方が良さそうだと考えて、日本への留学を決めました。国際政治や経済が専門的に学べる国立大を探してみると、筑波大がすぐに候補に上がりました。早速、見学希望のメールを送ったところ、担当の先生から「見学の際には案内します」と丁寧なお返事をいただきました。実際に訪れてみて、自然に恵まれている環境や、みんなが自転車で移動しているのがオランダと似ていると思いました。

### ●つくばの生活と将来の夢

つくばはとても住みやすいと思います。私の故郷は人口1000人程度の小さな町なので、アマゾンの配達もないし、スーパーマーケットも夕方6時には閉まってしまいます。ですから日本の生活で困ることはありませんが、留学初日は

驚くことばかりでした。

オランダから日本に到着して、そのまま一ノ矢学生宿舎に入居しました。その日は人生で経験したことのないほどの豪雨で、空にはヘリコプターも飛んでいました。同じ棟のメンバーは、アメリカ人、アフガニスタン人、エチオピア人、エリトリア人、台湾人で日本人が1人もいません。メンターの先生は豪雨で足止めされて会えません。そんな中、ネットの接続に困っていたら、一人の留学生が手伝ってくれました。オランダでもアムステルダムのような都会にはいろんな国の人が住んでいますが、私の町では、ほとんど外国人は見かけません。一度にこんなにたくさんの人種を見たことがなかった上に、最も不安な1日をそのメンバーで過ごしたということがとても印象的でした。

現在、私は学術系サークル「筑波模擬国連(Tsukuba MUN)」の運営に携わっています。今年の11月にはアメリカのワシントンD.C.で



学類の友人と大好きな草津にて



マース川から眺めたマーストリヒトの街並み



オランダでフライドポテト店はいつも





## Maarten van der Plas

マーテン・ヴァン・デル・プラスさん

所属 | 国際総合学類2年

課外活動 | 筑波模擬国連(Tsukuba MUN)  
テニスサークル ピクニック



行われる全米模擬国連大会に参加する予定です。世界各国から集まる学生たちが、それぞれどこの国の代表団として国連総会や専門委員会で、国際問題について議論します。筑波大からは、私の他に留学生を中心に7人のメンバーがフィリピン代表団として出場します。各議題に対して、フィリピンの国益に則った提案を行い、他国代表と協議の上、解決案を作成、合意に至るまでのプロセスを実践します。いずれは政治や法律の分野で国際的に仕事をしたいと考えているので、この経験が役に立つと思っています。

「将来は日本で働くのか?」と聞かれます。私は外資系企業の日本支社とかオランダ領事館で働きたいと思っています。日本で暮らしてみても、若者の社会でも不文律が多いこと、長時間のミーティングが当たり前なことなどを経験し、日本の労働スタイルには馴染めなさそうな気がします。

### ●1週間ヨーロッパを旅行するなら…

友人に「5日間休みが取れたからオランダに行こうと思うんだけど」と相談されて、「初めてヨーロッパに行くなら、見どころが詰まったイタリアやフランスの方がいいよ」とアドバイスしました。オランダは、ゆったりと旅する人にはおすすめです。郊外の風車や運河のある穏やかな風景、教会や古い建築を大切にされた景色もきれいですし、住宅を眺めるだけでも、レンガの外壁、光がたくさん入る大きな窓、広い庭など日本とは違う美しさがあります。

マーストリヒトの歴史は古く、ローマ時代にはすでに橋と小さな町ができていたと言われています。「マース」はドイツではライン川、フランスではセーヌ川につながる川の名前です。「トリヒト」は渡るという意味です。この辺りは浅瀬になっていたので、16世紀はスペイン軍、17、18世紀にはフランス軍、第二次世界大戦ではド

イツ軍との攻防の要所となりました。オランダ最古の城壁「ヘルポールト(地獄の門)」や、世界で最も美しい本屋に選ばれた「ブックハンデルドミニカネン」は観光の見どころです。

マーストリヒトの人々が誇りにしているのは、中心部のマルクトにある「Reitz(リッツ)」というフライドポテト屋さんです。隣にはマクドナルドがあったのですが、昔ながらのReitzファンの前では撤退に追いやられてしまいました。他には、ホワイトアスパラガスやこの地方の伝統菓子「Limburgse vlaai(リンブルグスフライ)」も有名で、時々懐かしくなります。逆にオランダに帰るとすぐに日本食が恋しくなります。でも大丈夫、ラーメンや肉ジャガを「独学」で作れるようになりましたから。



行列。なかでも「Reitz」はオランダ最古の専門店というだけあって人気



マーストリヒトの城壁「ヘルポールト」



教会を改装した書店「ブックハンデルドミニカネン」

# TSUKU COMM TOPICS

アドミッション

## 3日間のオープンキャンパス「大学説明会」に 1万人以上の高校生が参加



8月5日、6日、11日の3日間にわたり、「受験生のための筑波大学説明会 OPEN CAMPUS 2017」を開催しました。

学群・学類別の説明会には延べ11,669人の事前登録がありました。当日は、学群・学類ごとに工夫を凝らした研究施設見学や模擬授業など

を行い、在学生在が参加者を案内したり、研究紹介や体験談などで、未来の後輩たちへ大学をアピールしました。

その他に、事前申し込みが不要な大学概要説明や施設見学、受験相談を実施しました。また高校教員向けに、アドミッションセンター教員

が、本学の入試改革状況や教育について説明会を行いました。

夏休み中のキャンパスは、熱心に質問を投げかける制服姿の高校生や保護者の方々と、普段とはまた違った賑やかな光景となりました。



理工学群の研究紹介



人間学群のサポート学生



看護学類の施設見学

## 科学ワークショップ 「夏休み自由研究お助け隊」に 中学生が参加

7月24日に中学生を対象とした科学ワークショップ「夏休み自由研究お助け隊」を開催しました。毎年、医学、工学、芸術などの様々な分野から自由研究のヒントになるようなテーマを厳選し、本学の研究施設を使って教職員が講義と実習をサポートする恒例のイベントです。

### 【2017年度のテーマ】

ライトレースロボットを走らせてみよう／いろいろな電池を作ってみよう／大学の撮影スタジオで、科学写真や芸術写真を撮ってみよう／医学系大学の実習を体験してみよう／地震に強い家を考えてみよう／CDで分光器を作り光の色を調べてみよう／地形現象を簡単な装置で確かめてみよう／甘酒のこうじ菌のはたらきを調べてみよう／ニワトリの発生を観察してみよう／ペーパークロマトグラフィーで色素を分離してみよう！／Arduinoを使ってプログラムしてみよう／レーザー彫刻機を使って、デジタルなものづくりに挑戦してみよう／マウス(ハツカネズミ)の発生について学んでみよう

今年は13テーマに、83人の中学生が参加しました。3～5人グループでのきめ細かい実習指導に、「説明がわかりやすかった」、「プログラミングは思ったより簡単に楽しくできた」、「家でも試してみたい」など、大変好評でした。



医学実習を体験



Arduinoを使ったプログラム実習



マウスの発生の過程を観察

## 本学大学院生がJAXA筑波宇宙センターの 巨大壁面をデザイン！

宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センターの一般見学エリア内「プラネットキューブ」、正面外壁一部のリニューアルに伴い、本学の大学院生によるデザインが採用され、7月末に完成しました。

このデザインは、JAXA広報部の依頼により、芸術系の山本美希助教が大学院芸術専攻の授業の一環として実施し、5人の大学院生が宇宙をイメージして提案したデザインの中から、伊藤香里さん(人間総合科学研究科芸術専攻博士前期課程2年)の案が採用されたものです。

プラネットキューブは、宇宙に関する企画展コーナーとミュージアムショップ等が併設された建物で、年間およそ30万人の一般見学者が立ち寄る施設です。

完成したデザインは、縦8m、横7mの巨大なもので、宇宙を目指すロケットをイメージしています。

本学とJAXAは、今後も研究・教育の両面でさまざまな連携を進めていく予定です。



写真提供：JAXA

## 2017年 日本留学AWARDSを2部門で受賞

2017年日本留学AWARDSにおいて、本学が国公立大学部門と大学院部門(いずれも東日本地区)の2部門で受賞しました。

日本留学AWARDSは、留学生に勧めたい進学先として日本語学校の教職員によって選出される賞です。国公立大学部門は3年連続、大学院部門は2年連続での受賞となりました。

大学部門の主な受賞理由は、「歴史があり、質のよい教育が受けられる環境がある」「様々な分野があるだけでなく、日本語教育もしっかりしており、日本語面でのサポートも受けられる」「主要国立大学の中でもグローバル化が進んでおり、留学生の受け入れも多い」「最先端の技術を学ぶことができる」でした。また、大学院部門では教育内容、学費、学生の満足度が高く評価されました。



写真提供：一般財団法人日本語教育振興協会

## 第1回 なないろスポーツフェスタ開催

7月2日に、本学体育系主催「第1回なないろスポーツフェスタ」がつくば市の洞峰公園で開催されました。オリンピズムをテーマにした、スポーツと教育のイベントです。

本学ではこれまでに、障がいや国籍、性別を越えてタスキをつなぐ「なないろ駅伝」を学内、ナイロビ(ケニア)、リオデジャネイロ(ブラジル)で行ってきました。今回は、駅伝以外に4時間耐久リレーやアダプテッド競技、ファミリーランなどの種目を増やし、「なないろスポーツフェスタ」にグレードアップ。スポーツの持つ7つの価値「勇気、決断、鼓舞、平等、卓越、友情、尊重」を共有することを目的に行われました。

本学学生のほか、オリンピック選手、家族連れなどおよそ1,000人が参加し、性別や年齢、国籍などさまざまな違いを越えてチームを組み、協力し合ってゴールを目指したり、新しいスポーツに挑戦しました。



みんなで励まし合い、助け合った「なないろ駅伝」



アダプテッドスポーツや古代オリンピック種目にも挑戦



ファミリーランでは親子で協力して、ゴールを目指す

## 受動喫煙により大動脈疾患死亡が約2倍に増加

国立がん研究センターによれば、たばこを吸う同居人からの受動喫煙で肺腺がんになる危険性は約2倍にもなるといいます※。受動喫煙は、家庭内のみならず、職場、飲食店、さらには路上でも起こり得ます。受動喫煙が及ぼす影響としては、これまでに各種がんのほか、心筋梗塞や脳

卒中などのリスクが高まることがわかっています。

医学医療系の山岸良匡准教授らの研究グループは、受動喫煙によって大動脈疾患(大動脈解離・大動脈瘤)による死亡が増加することを、世界で初めて発表しました。喫煙が大動脈疾患を引き起こす主要な要因のリスク因子の一つであることは、すでに知られています。しかし、大動脈疾患と受動喫煙との関連については、これまで明らかになっていませんでした。

今回の研究は、1988年に開始された大規模地域コホート研究 JACC Studyのデータを解析して判明したものです。この調査では、全国45地区の住民(研究参加者は計48,677人)を対

象に、質問紙によって生活習慣を把握しつつ、平均16年間にわたる追跡がなされました。山岸准教授らは、その調査結果を基に、受動喫煙の程度が高いグループは、受動喫煙の程度が低いグループと比較して、大動脈疾患で死亡する割合が2.35倍も高いことを見出しました。しかも、家庭外での受動喫煙の影響の方が、家庭内での影響よりも強いことが示されました。

現在の日本ではまだ、受動喫煙対策が十分ではありません。本研究を機に、受動喫煙の有害性についての認識がさらに広まることが期待されます。



山岸良匡 准教授

※国立がん研究センター 社会と健康研究センター 予防研究グループHPより (<http://epi.ncc.go.jp/jphc/outcome/309.html>)

## 海洋から大気への硫化ジメチル放出量の実計測に成功 ～磯の香りが雲を作る～

海岸に行くと独特の匂いがします。磯の香りとも称されますが、その大本は、海のプランクトンが生成して放出している硫化ジメチルという揮発物質です。この物質には、大気上空で雲を作るはたらきもあります。そのため、地球の気候システムを理解する上では、海洋から大気へ放出される硫化ジメチルの放出量を把握することがきわめて重要です。

生命環境系の大森裕子助教は、国立環境研究所などの共同研究により、独自の観測システム(PTR-MS/GF法)を用いて、海洋から大気への硫化ジメチル放出量の実計測に成功しました。大森助教らは、海洋研究開発機構所有の海洋調査船「白鳳丸」の研究航海に参加し、太平洋の亜熱帯域から亜寒帯域に及ぶ広い海域で、各地点における硫化ジメチル放出量

を観測しました。調査では、観測用のブイ(プロファイリングブイ)を海洋に設置し、海洋表面直上の大気中の硫化ジメチル濃度の実測値と気象データから、硫化ジメチル放出量を算出しました。その結果、従来の計算方法を用いた硫化ジメチル放出量の推定値は、今回の実測値とほ

ぼ一致することが確認できました。

この方法による観測を広く実施していくことで、大気への硫化ジメチル放出量測定精度が向上し、気候システムモデルの精緻化に貢献できると考えられます。



PTR-MS/GF法に使用したプロファイリングブイ。海洋直上の大気を採取するために、プロファイリングブイには、高度5cm～2mまでの高さに大気採取用インレットを設置してある



大森裕子 助教

## 蹴球部が天皇杯でベスト16。大応援団が見守る中、4回戦も善戦

第97回天皇杯全日本サッカー選手権大会で、本学蹴球部がベスト16入りを果たしました。大学チームとしては2009年以來の快挙です。

アマチュア唯一の勝ち残りとして、全国から期待がかかる中で行われた4回戦の相手は、J1の大宮アルディージャ。9月20日、茨城県立カシマサッカースタジアムにおいて、バス9台で駆けつけた特設大応援団とともに、試合に臨みました。

結果は惜しくも0対2で破れましたが、90分間、

精一杯戦い抜いた選手たちに、本学側ゴール裏からは惜しめない拍手が送られました。

天皇杯は、予選も含めて2,000チーム以上が参加し、プロ、アマチュアを問わず日本男子サッカーの頂点を定める大会です。

蹴球部は、引き続き、関東リーグ、全日本大学選手権のタイトル奪取を目指します。



大宮戦ではゴール裏を青一色に染め上げました

●第97回天皇杯 本学の対戦結果

【1回戦】4/23 2-1 J3 Y.S.C.C横浜	【3回戦】7/12 2-1 J2 アビスパ福岡
【2回戦】6/21 3-2 J1 ベガルタ仙台	【4回戦】9/20 0-2 J1 大宮アルディージャ



7月の福岡戦に勝利し、4回戦進出を決めて喜ぶ選手

写真提供：筑波大学新聞

## 学生生活

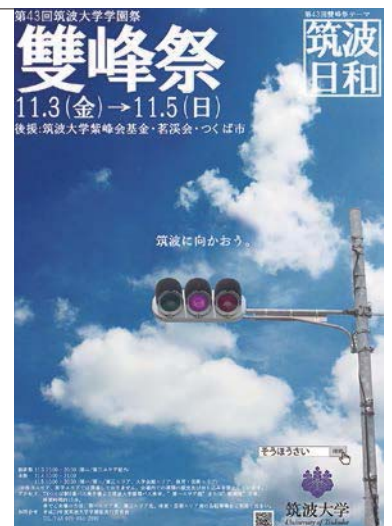
### 第43回筑波大学学園祭「雙峰祭」

本学学園祭「雙峰祭」は、11月3日(金) 15:00開始の前夜祭、および11月4日(土)・5日(日) 10:00-21:00本祭の日程で開催します。

今年のテーマ「筑波日和」には、学園祭を通

じて学生たちがそれぞれの持つ幅広い才能を十分に発揮し、来場者に普段とは一味違う大学の魅力を味わってもらいたいとの思いが込められています。

詳細は、雙峰祭ホームページ <https://www.sohosai.tsukuba.ac.jp> をご覧ください。



# 世界のトビラ

筑波大学は、海外の教育研究機関と連携し、学生・教職員の受け入れや派遣、交流イベントの開催など、国際的にも「開かれた大学」を目指して、さまざまな活動を展開しています。

## おしゃべりから始めよう、国際性の日常化

筑波大学のキャンパスには、およそ2500人の留学生がいます。100を超える国・地域からやってきた留学生たちとの交流は、世界に目を向けるきっかけをくれます。身近な国際交流の場は、在学生はもちろん、市民にも開かれています。

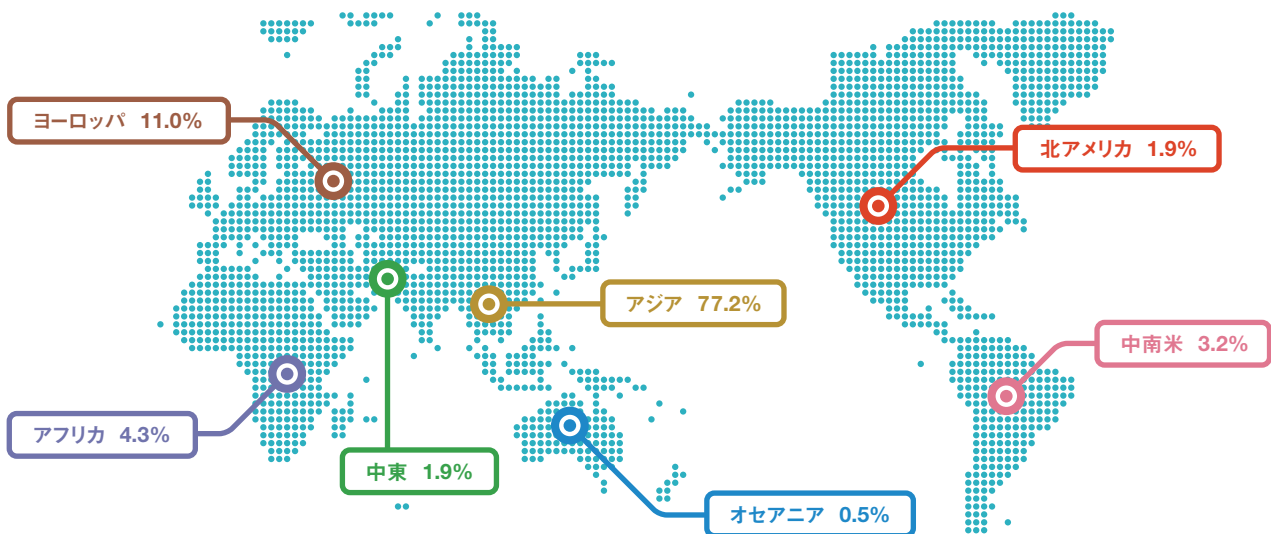
筑波大学が掲げるコンセプトのひとつ「国際性の日常化」を実現するための第一歩として、グローバル・commons (GC)では、学生や教職員が、キャンパス内でカジュアルに国際交流を楽しむ場を設けています。それが、「GC Chat」や「Cosmos Café」。留学生を囲み、飲み物や軽食を持ち寄り、学生生活や文化の違いなど、自由なおしゃべりが弾みます。さまざまな曜日や時間帯が設定されていて、英語だけでなく日本語や他の言語が飛び交うこともあります。日本人学生にとっては、海外への関心を高める入口にもなります。

「City Chat Café」は、市民向けに毎月開催される同様の機会です。つくば市内のショッピングモールなどを会場に、毎回50人ほどの市民が参加する人気イベントとして定着しています。留学生たちの出身国のこと、日本での生活、など学生同士とはまた違った視点で会話が盛り上がります。誰でも無料で参加できますので、語学レベルを気にせず、ぜひお気軽にお越しください。

City Chat Café  
<http://www.life.tsukuba.ac.jp/~icafe/>



### 留学生の出身地域



※平成29年5月1日現在

# ツクバで ツナがる

5000人を超す教職員がいる本学。



## BATON 01

財務部全学会計センター  
飯野 玲子 さん

筑波大学の雙峰祭は、子どもも楽しめる催しが結構あります。私もよく息子を連れて遊びに行きました。数年前連れて行った時に走り回っていた息子が、陶芸作品の販売店で急に立ち止まり「僕の手にぴったりでしょう。」と深い翡翠色のカップを持ってきました。使っていたプラスチック製のカップではなく、大人と同じ陶器製の物が欲しくなったようです。今でも息子は、小さくなったこのカップを愛用しております。折角の出会いですから、これからも大切に使って欲しいものです。

雙峰祭で出会ったカップ

NEXT

今回は、財務部契約課の荻原拓来さんです。「全学会計センター発足時に、同じ担当と一緒に仕事をさせていただきました。気配り上手でとても頼れる人です」



広い世界での活躍を日々意識して

学長  
永田 恭介 さん

毎年夏休みに、故郷山形の丸茄子漬けを頂戴する後輩からバトンを受けました。人は育つもの。この世に生を受けた某家の某君(さん)は、某小学校の某君となり、某中学校、某高校の某君となり、そして筑波大学の某君。4年生、大学院生になると某研究室や某ゼミの某君ですが、世界にできれば日本の某君であることを思わざるを得ません。強くそのように意識しながらの日々の努めは、やがて某(仕事、研究などの中身)の某君と世界中から呼ばれる日をもたらします。本学に勤める者達は、本学を支えてくれている者達はそう信じて疑いません。頑張ろう！

## BATON 05

NEXT

今回は、海野満峯さんです。「『花を生ける』を武器に、入学式を、卒業式を栄えある姿に、本部の入り口等で希望を与えてくれる方です」

## BATON 02

図書館情報エリア支援室  
村上 沙代 さん

つくばに越して、4年が経ちます。自然豊かでありながら生活にも便利で、すっかり気に入っています。つくばは緑豊かな公園もたくさんあり、週末は家族でよく公園へ出かけます。今年の4月から保育園に入園した娘は頻繁に発熱するため、週末は人ごみには連れていきません。ですが、公園なら風邪をもらう心配ありません。洞峰公園や松見公園もお気に入りですが、万博記念公園は人もあまり多くなく、のんびりできてお勧めです。お弁当を持ってピクニックするのも楽しいです。写真は「こなら公園」です。大きな滑り台があって楽しいですよ。

週末は公園へ



NEXT

今回は、広報室の大園裕香さんです。「同じ日に筑波大学に入職した同期です。常に明るく、とても面白く、一緒にいると元気になれる、素敵な友人です」

スポーツに楽しく参加

小学校から高校までは、昭和時代の多くの少年がそうだったようにずっと甲子園を目指して硬式野球をしてきました。大学では、ワンダーフォーゲル部に所属し野球から少し離れていましたが、社会人になってからは、以前いたことのある通信業界のテレコムリーグ(軟式野球)や大学のソフトボール大会などに楽しく参加してきました。写真は、今年3月、慶應義塾大学文学部の糸賀雅児教授の退職記念試合のときのものです。最近では体力も少し落ちてきたので、スポーツが盛んなつくばの地で野球以外にも楽しく参加していきたいと思っています。



図書館情報メディア系助教  
小泉 公乃 さん

## BATON 06

NEXT

今回は、学術情報部情報企画課の峯岸由美さんです。「学術情報のスペシャリスト! 研究はもちろん、学類生の図書館実習でお世話になっています」



# リレーメッセージ

それぞれが切り取るツクバの「今」を、8本のバトンでつなげていきます。

私は診療放射線技師として、陽子線と呼ばれる放射線を患者さんの体に当てて、がんを治す仕事をしています。小さいころ、ウルトラマンに憧れてビームを出すポーズをよく練習しました。まさか大人になって、本当にビームを出す仕事に就くなって思いもしませんでした(笑)。でもウルトラマンに憧れていた時から変わっていないことがあります。それは「人を助けたい、救いたい」と思う心です。これからも患者さんの命を救う手助けを少しでもできるように、本当の意味で「ウルトラマン」になれるように頑張っていきたいと考えています。



本当の「ウルトラマン」に

附属病院陽子線治療センター  
吉村洋祐さん

BATON  
03

NE  
XT

今回は、医学医療系助教の森祐太郎さんです。「大学院、職場とずっと僕の前を走り続けてくれている、一番尊敬できる先輩です!」

システム情報系教授  
秋山英三さん

BATON  
04

カブトムシ

つくば市は、中心部から少し離れたところ、畑や林が広がるのどかな風景になります。今住んでいる家が建っているのは、つくば駅から徒歩15分くらいのところですが、ごく近所に田畑や林があります。今年の夏は毎晩のように息子を林に連れて行き(連れて行かされ)、カブトムシやクワガタをたくさん捕りました。カブ・クワとも、あつという間にたくさん捕まるので結構驚きます。遊び盛りの子供にとって恵まれた環境だと思えます。写真は、車に乗ってしばらくの所にある貸農園です。今年は一畝借りて、サツマイモを植えました。秋には大量に採れそうです。



NE  
XT

今回は、体育芸術エリア支援室の波戸省子さんです。「今年の夏は、お子さまからうちの息子が大きな甲虫を頂きました。ありがとうございます!」

BATON  
07



筆者 右から2番目

仲間の大切さを改めて実感

総務部人事課  
新垣早紀さん

昨年の12月にひっそり始めたベース。職員同士でバンドを結成し、あつという間に1年経過しようとしています。始めたばかりでバンドなんて無茶だ!とと思っていましたが、一緒に頑張る仲間がいなければ、きっとどこかで挫折してしまっていたらと思うと今は思います。仲間がいることの大切さを改めて実感しました。また、仕事で関わる機会が少ない職員の方々とも交流ができるようになったので、思いきって挑戦して良かったです。今後も少しずつ色々なことに挑戦していけたらいいなと思っています。

NE  
XT

今回は、教育推進部教育推進課の小泉祐太さんです。「何でも相談できる職場の先輩であり、大学の同期です。いつも頼りにしています!」

BATON  
08

システム情報エリア支援室  
古谷明久さん

友人たちは大きな財産

写真は、ソウル大学で行われた「筑波大学教職員チームvsソウル大学教職員チーム」のサッカー交流試合のものです。毎週月曜日、蹴球部小井土監督の下に教職員メンバーが集まり練習をしています。交流試合は毎年行われ、今年で5回目となります。週末は、学外の社会人チームに所属して茨城県とつくば市のリーグに参加してリフレッシュしています。サッカーを通じて多くの方々と知り合えたことは、私にとって大きな財産です。

NE  
XT

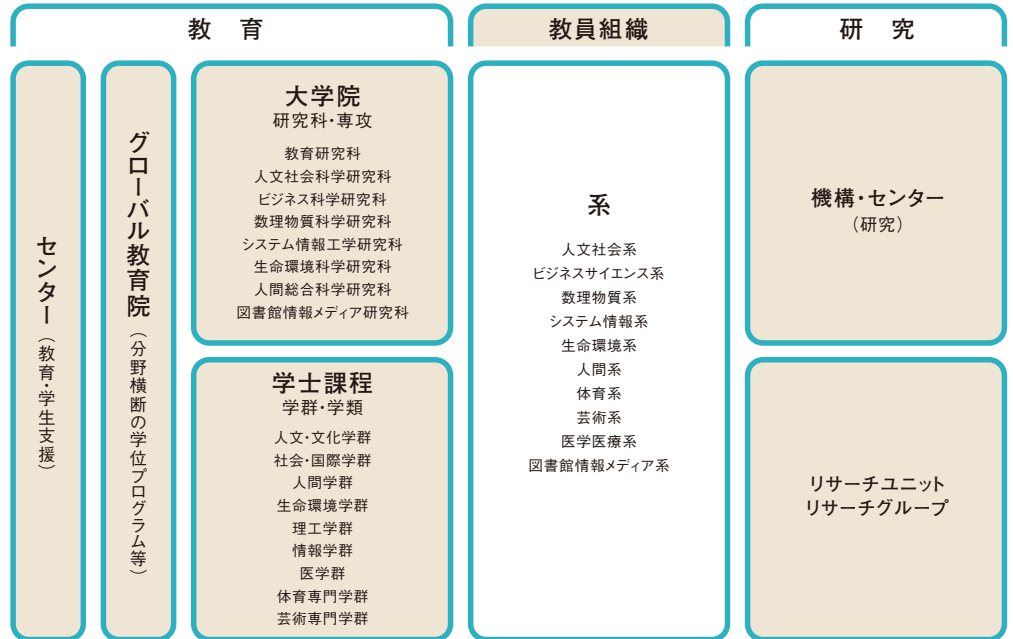
今回は、総務部人事課の松崎茂紀さんです。「20年以上、一緒にボールを追い続けているサッカー仲間です。彼のストイックすぎる生活には脱帽しています!」



筆者 前列左端

## 筑波大学独自の学際融合・領域横断的なシステム

筑波大学は医学・体育・芸術も有する総合大学として、学群・学類等の壁を低くして、学生が専門分野以外にも幅広い教養を身につけることを可能にしています。また、教員は「系」に所属し、基盤的な研究を行いつつ、学群・学類、研究科・専攻、センター等それぞれの目的に即した教育研究を担います。



2017.7.1現在



### 筑波大学サテライトオフィスとは？

より幅広く本学を知っていただくために、つくば駅に隣接する複合商業施設「BiViつくば」2階に設置された情報発信拠点です。本学の学生がスタッフとして活動しており、入学案内等の配布の他、教職員や学生によるさまざまなイベントを通じて、社会、地域との交流を行っています。

### メイクアップ講座:めざせ内面美人

「外見だけじゃない、中身からキレイになろう」というテーマによる、2つの学生交流団体「しゃべっぺ」と「Cherie」のコラボイベント。宝塚歌劇団の「ブス・美人25箇条」を音読して、脳美人という考え方を学びました。また、モデル経験のある講師にメイク指導をもらい、「普段のメイク道具でもこんなに変わるんだ!」と歓喜する姿が印象的でした。全員女性ということに加え、台湾とベトナムからの参加者もいて、国際色豊かで華やかな雰囲気になりました。



### OPENDATA: Ideathon in Tsukuba

本学システム情報系公共イノベーション研究室とつくば市の主催で、アイデアソンが行われました。アイデアソン(Ideathon)とは、アイデア(Idea)とマラソン(Marathon)を掛け合わせた造語です。学生や起業家などの参加者が、「経済復興」「子育て」「福祉」「インフラ」の4テーマに分かれ、課題とその解決策を導き出し、発表が行われました。議論の結果は、つくば市にフィードバックされることになっています。このイベントは全3回で、今回は10月に行われる予定です。



029-855-2101  
bivi-koho@un.tsukuba.ac.jp



筑波大学サテライトオフィスは皆さまのご利用をお待ちしております。

また、Twitterでもイベント情報などをお伝えしています。

@tsukuba\_sat

# Events Calendar

## 10 October

- 1日(日)・開学記念日
- 2日(月)・秋学期授業開始
  - ・ダイバーシティAwareness Week 2017(～6日)
  - ・入学試験(第2次選考)「AC/国際科学オリンピック/国際バカロレア/海外教育プログラム」(～16日)
- 10日(火)・附属図書館特別展「江戸の遊び心 ― 歌川国貞の描く源氏物語の世界 ―」(～11/19)
- 20日(金)・合格発表「AC/国際科学オリンピック/国際バカロレア/海外教育プログラム」
- 25日(水)・2017年度筑波大学 秋の留学フェア(25日)
- 29日(日)・ちょこっと理科(十国語・社会・算数)クラブ リターンズ(東京キャンパス)

## 11 November

- 3日(金)・雙峰祭(～5日)
- 4日(土)・第20回(平成29年度)ホームカミングデー
- 9日(木)・高校生国際ESDシンポジウム(東京キャンパス)
- 18日(土)・秋季スポーツ・デー(～19日)
- 25日(土)・SGH全国高校生フォーラム(バンフィコ横浜)
- 27日(月)・平成29年度T-ACT公開シンポジウム
- 29日(水)・入学試験「推薦/帰国生徒(体育・芸術)」(～30日)

## 12 December

- 2日(土)・英語スピーチ・プレゼンテーション大会(～3日)
- 10日(日)・共生社会を目指すスポーツ交流とシンポジウムの集い(附属中・高等学校)
- 12日(火)・合格発表「推薦/帰国生徒(体育・芸術)」
- 20日(水)・秋ABモジュール期末試験(～26日)
- 23日(土)・「科学の芽」賞表彰式・発表会(大学会館)
- 27日(水)・冬季休業(～1/8)

